

有限会社 福田織物

認定テーマ名：綿細番手をコアにした、軽量コーデュロイを含めたスーパーエキストラ
ファインテキスタイルの事業化

1. 認定を目指した経緯

有限会社福田織物は、静岡県掛川市の織物メーカーである。細番手織物の高い技術を保持しており、長年細番手織物の研究開発を行ってきた。周辺は日本一の生産を誇る別珍コール天、および綿織物の産地であるが、従来のコーデュロイは太い糸を使い、重く・厚く・硬く、若年層に受け入れられにくい状況であり、さらに、中国から価格の安いコーデュロイやシャツ地が大量に輸入され、価格のデフレ化が進んでいた。産地織物の単価は下落し、受注量も半減して、染色加工場や仕上げ加工場の廃業が相次ぎ、生き残った企業も経営状況が悪く、リストラが続き職人は高齢化し、技術革新が進まず産地破壊が進んでいる状況であった。そこで、地域技術を活かして、浜松を中心とした繊維企業群のサイジング加工企業、起毛加工企業、糸開発企業、染色開発企業とサプライチェーン全体での連携を図り、綿細番手をコアにした新たな超軽量綿生地を開発することが、産地の活性化につながると考え本事業に着手した。

取引先からは「より薄くて軽く柔らかい綿生地が欲しい」との要望が多く寄せられており、国内外の有名ブランドやデザイナー達からの関心も高かったため、綿 100/1 や綿 120/1 の細番手でスーパーエキストラファインテキスタイル（超軽量綿生地）の開発を目指した。超軽量綿生地は世界の中で生産している企業が非常に少なく、大量生産しにくいいため、後進国の追随もあまり見受けられない。また、欧州のテキスタイルメーカーも、あまり綿細番手技術を持っていないため、市場で有利に働くと判断した。日本ファッション界がグローバルで戦っていくためにも、中国や欧州勢に負けない生地を開発したいと当該事業での地域資源活用事業計画の認定を目指した。

2. 認定事業の現況



【開発商品の光透けるストール】



【光透けるストール春の新品】

(1) 自社オリジナルブランドの確立：

工場の織機にかけられる限界まで細い 120 番単糸の超極細綿糸をつむぎ、同社の技術でこの糸の長所を最大限に生かして、柔らかく膨らみのある質感で滑らかな肌触りのスーパーエキストラファインテキスタイル（超軽量綿生地）の開発に成功した。開発した生地はアパレルメーカー等から好評を得ており、取引を拡大させている。

一方で、流行の移り変わりが激しいファッション業界では、テキスタイル商売は不安要素も多い。生地の特徴をアピールして安定的に販売を継続するためには、自らをアピールできる、自社ブランド商品の育成が不可欠であることからオリジナルのストール開発にも着手した。120 番手は一般的なストールで使う糸の 1/4 で、糸が細いため織機に糸をかけるだけで丸 1 日かかる。糸が切れないようにゆっくり織り、17 時間織り続けて出来上がるのは一反ほどであるが、柔らかい手触りで、大判ストールでも 45g の驚くほどの軽さ（一般綿ストールのおよそ 1/5）に仕上げる。身につけているのを忘れるほどの軽さだけでなく、綿という素材は肌もあれにくく、汗の吸収性も高い利点がある。完成商品は「光透けるストール」と名付け、「Fukuda Orimono」ブランドで販売を開始した。自社オリジナル商品開発・販売は初めての試みであったが、企業全体の認知を高められるよう企業ブランドにも「Fukuda Orimono」のロゴを使用し、戦略的に社名を前面に打ち出していった。現在、自社オリジナル商品の細番手ストールを中心に、企業ブランド「Fukuda Orimono」が構築でき、認知度も向上している。ストールは、その高い品質から各展示会での評価が高く、大手百貨店から当該商品を扱いたいとの強いオファーがあり、口座開設も実現した。現在では、ストールの商談を機に、本業の生地販売につながるケースも見られており、生地売りとの相乗効果も得られている。

(2) 販売拠点の充実：

自社オリジナル商品の販売を強化するためオンラインショップを開設した。また生地売りでは、天然繊維をメインとした業者間取引サイト「fukudaorimono.net」も開設し、小ロット・短納期でインターネットからの注文を可能とした。さらに、自社オリジナルブランドに直に触れる機会を広めるため、事務所脇に工房兼自社店舗をオープンさせ、ストール以外の自社ブランドの開発も進めている。この自社店舗ではエコをキーワードとして、生地生産で余った残糸を使った軍手、軍足等を販売し好調を得る他、残布を利用した手拭いや雑貨等も作成し、商品ラインナップを増加させている。

光透けるストールオンラインショップ → <http://www.fukuda-textile.com/stole.html>

3. 今後の展望（見通し）

「Fukuda Orimono」のトータルブランディングを推進し、既存事業と認定事業双方にてブランドを浸透させ、アパレル市場全体へ同社の認知を深めていく。自社オリジナル商品の展開では、ストール定番は 18,900 円の無地タイプであるが、ニーズ調査を進めるとプリント柄やかご染め等の染めに工夫を凝らしたアイテムも人気が高く、25,000 円ラインでも需要が見込めるため、新アイテムの開発も積極的に進めている。試作品として“リップル加工×グラデーショナル染め”があり、これは糊に生地が縮む薬品を混ぜてプリントし、その柄の縮んだ部分を模様とする加工方法

を用いている。今後もニーズを見極めて新商品ラインナップを増加させながら、ブランドの一層の認知度向上を推進していく。

販売拠点としては、従来の専門店や百貨店のみでなく、新たな取引先の開拓も行っている。平成 26 年春には、初めての試みとして、掛川市二の丸美術館内での展示販売が実現する。また海外からの引き合いも増しており、今後は海外展開も検討していきたい意向である。



【試作中の光透けるストール “リップル加工×グラデーション染め”】

4. 利用した中小機構の支援策

(1) 地域活性化パートナー事業の活用：

自社オリジナル商品の完成後、平成 23 年より地域活性化パートナー事業を利用して、J F W-I F F の NIPPON MONO ICHI ゾーンにて毎年展示を実施している。これは新ブランドの構築促進や PR、新規販路開拓に効果的であり、商品取引の実現と「Fukuda Orimono」ブランドの認知度向上が実現できている。継続出展して、回を重ねるごとに、バイヤーとの関係が密接となっていく、現在では株式会社高島屋、株式会社松屋、株式会社阪急阪神百貨店、株式会社三越伊勢丹などの大手百貨店バイヤーから品質を高く評価されている。催事出展のオファーを受けて始まった取引は、現在も定期的に継続しており、今後は常設店での販売展開も期待できる。

(2) 地域活性化支援アドバイザー派遣の活用：

スーパーエキストラファインテキスタイルの完成後、自社ブランドとしてストールの商品化を進めたが、商品のブランディングは初めての経験であった。そこで、地域活性化支援アドバイザー派遣を活用し、商品ブランディング、パッケージ、商品計画までトータルの専門家による支援を受けた。アドバイザー派遣では、これまで自社の経営資源では不足していた知見やノウハウを得られ、最終的に自社の技術的な強みも再確認できて、企業ブランドの認知度向上と、自社オリジナル商品の「Fukuda Orimono」ブランドの確立に成功した。

Fukuda Orimono

【ブランドタグ】



【ストール専用パッケージ】

5. 企業概要

事業者名	有限会社 福田織物		
本社所在地	静岡県掛川市浜川新田 771		
ホームページアドレス	http://www.fukuda-textile.com/		
設立年月	昭和 38 年		
資本金	8,000 千円	従業員数	7 名
売上高	全体：非公開、認定事業の売上高：30,220 千円（累計）		

※平成 25 年 5 月 31 日現在

6. 認定事業の概要

テーマ名	綿細番手をコアにした、軽量コーデュロイを含めたスーパーエキストラファインテキスタイルの事業化
テーマの概要	コーデュロイの重たく厚い素材との概念を打ち破り、海外からセレクトした最高級綿であるスーピマやインド綿などを使用した極細糸で織り上げた、薄いエキストラファイン（細い糸の番手）コーデュロイや綿生地の開発。
認定期間	平成 20 年 9 月 19 日～平成 25 年 5 月 31 日